

人材育成のこれから

人材委員会 活動報告

令和4年度国立大学図書館協会シンポジウム（2022.9.28）

筑波大学 学術情報部 アカデミックサポート課 峯岸由美

ビジョン2025

前文

社会のあり方が急激に変容し、大学における教育・研究を巡る環境が一変する中で、国立大学図書館には、
学術情報資源のデジタル化、場所や時間を問わず持続可能な情報提供体制の整備、
教育・研究のデジタルトランスフォーメーションへの対応などが強く求められている。

重点領域3． 知の媒介：知の交流を促す〈人材〉の構築

国立大学図書館は、図書館職員を中心としてさまざまな能力を有する人材の集合体を形成することで多様な知の共有と創出を促す。また、図書館職員の能力向上のため、研修制度等を整備する。

目標3-1) 多様な人材との協働

国立大学図書館は、学生・教職員等を含むさまざまな能力を有する人々と図書館職員とが一体となり、学術情報を整理し、新たな価値の創造を行う「キュレーション」や人と知識や情報、あるいは人同士の相互作用を促す「ファシリテーション」等の機能を提供することにより、多様な知の共有と創出を実現する。

行動計画3-1-1) 学生と協働し、図書館においてピアサポートをおこなうなど、学習／学修活動の充実に貢献する。

行動計画3-1-2) 異なる職種の人々と協働し、情報リテラシー教育をおこなうなど、大学が進める教育活動に貢献する。

行動計画3-1-3) 異なる職種の人々と協働し、研究データ管理計画の遂行を支援するなど、大学が進める研究活動に貢献する。

目標3-2) 国立大学図書館職員の能力向上

国立大学図書館は、これまで培ってきた学術資料に関する専門的知識やメタデータ運用能力並びに学習支援の経験に加え、デジタル化資料への対応など新たな知識を職員に習得させ実践させることにより、大学の教育研究及び学術情報流通をめぐる環境変化の中で国立大学図書館に期待される機能を実現する。

行動計画3-2-1) 図書館職員に求める人材像を明確化し、その採用・育成方針を策定する。

行動計画3-2-2) 中・長期的な職員の育成方針に基づき、職員に標準的能力及び自館の特性に応じた専門的能力を習得させる。

令和4年度事業計画

事業内容

1. 人材についての制度の整備、キャリアパスの設計、
人的交流の拡大に関する企画・立案
2. 地区助成事業の企画・審議
3. 海外派遣事業の企画・審議

令和4年度事業計画

活動計画/重点事項

1. 協会ビジョン2025に基づく国立大学図書館職員の能力向上のため、会員館における人材育成のグッドプラクティスを共有するとともに、これからの国立大学図書館の職員に必要な専門性の素案提示のための調査・検討を行う。
2. 地区助成事業の効果的な成果の共有方法について具体化し実施する。
3. コロナ禍における海外派遣事業のあり方について検討し関係規則類の見直しを行う。

1. 協会ビジョン2025に基づく国立大学図書館職員の能力向上のため、会員館における人材育成のグッドプラクティスを共有するとともに、これからの国立大学図書館の職員に必要な専門性の素案提示のための調査・検討を行う。



日付	国の審議会など	JANUL	その他
1991年5月		図書館専門職員問題特別委員会『図書系専門職員の人材確保に関する当面の方策－図書館専門職員問題特別委員会報告書－』（平成3年5月）	
1996年7月		大学図書館員の育成確保に関する調査研究班『大学図書館職員の育成・確保に関する調査研究班－最終報告書－』（平成8年7月）	
2000年6月		図書館組織機構特別委員会『平成11年度国立大学図書館協議会図書館組織機構特別委員会最終報告』（平成12年6月）	
2006年3月	科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会『学術情報基盤の今後の在り方について（報告）』 p.59-60（平成18年3月23日） https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1213896.htm		情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究（LIPER）（平成18年3月終了） http://wwwsoc.nii.ac.jp/jslis/liper/index.html
2007年3月		国立大学図書館協会人材委員会。「大学図書館が求める人材像について：大学図書館職員のコンピテンシー」（平成19年3月） https://www.janul.jp/sites/default/files/hr_jinzaizo200703.pdf	
2010年3月		人材委員会「図書館組織及び人事政策に関するアンケート調査結果の概要」（平成22年3月） https://www.library.osaka-u.ac.jp/others/janul/jinzai/enq09a1.pdf	
2010年12月	科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会。「大学図書館の整備について（審議のまとめ）－変革する大学にあって求められる大学図書館像－」（平成22年12月） http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm		

日付	国の審議会など	JANUL	その他
2011年3月		人材委員会「図書館人員政策課題（検討資料）」（平成23年3月）	
2012年3月		国立大学図書館協会人材委員会. 「図書館職員の人事政策課題について（提言）」（平成24年3月） https://www.janul.jp/sites/default/files/hr_jinjiseisakukadai201203.pdf	
2013年6月	文部科学省. 『今後の国立大学の機能強化に向けての考え方』（平成25年6月20日） https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/093/093_2/shiryo/attach/1338671.htm		
2013年8月	『学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議のまとめ）』, 平成25年8月, https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2013/08/21/1338889_1.pdf		
2013年11月	文部科学省. 『国立大学改革プラン』（平成25年11月）		
2014年2月	中央教育審議会大学分科会. 『大学のガバナンス改革の推進について（審議まとめ）』（平成26年2月12日） https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1344348.htm		
2014年10月		国立大学図書館協会人材委員会人材育成小委員会（人事政策検討班）. 「業務委託と人事交流を中心に：平成24年度～25年度調査報告」（平成26年10月） https://www.janul.jp/sites/default/files/hr_gyomuitakujinjkoryu.pdf	
2015年12月		国公立大学図書館協力委員会研修のあり方に関するワーキンググループ. 「大学図書館職員の専門性と専門研修のあり方について（報告書）」（平成27年12月）	

2. 地区助成事業の効果的な成果の共有方法について具体化し実施する。



効果的な成果の共有方法として、資料のリポジトリ掲載、国立大学図書館協会ホームページへのメタデータ集約等を検討。



「地区協会助成事業成果共有会」の実施に向けて準備中。

国大図協地区協会助成事業 成果共有会
「地区協会助成事業のこれまでとこれから」(仮)

開催日： 2022年12月2日(金) 13:30~15:30(予定)

開催方法： オンラインによる

参加対象： 会員館の職員

目的： 地区協会助成事業は、平成19(2007)年度に開始されてから16年目を迎えるが、各地区における成果はウェブサイトでの報告書の掲出にとどまり、全地区を俯瞰する形でその成果や課題を共有し、今後の在り方を議論する機会はなかった。

そこで、各地区協会において事業で得られた知見や業務へのフィードバックなどの成果を互いに報告し、課題も洗い出したうえで、今後の事業の在り方や実施内容の前向きな検討につなげることを目的とした会とする。

3. コロナ禍における海外派遣事業のあり方について検討し 関係規則類の見直しを行う。



感染症の状況により海外派遣が難しい状況が続いているが、
状況が解消され次第派遣できる体制を整えておくことが必要。



令和5年度以降に向けて要項の見直しを行っている。

さらに

総務委員会との合同企画

「知の創出:新たな知を紡ぐ<場>の提供」に係る取り組み

会員館からの提案

図書館学・図書館情報学等の研究者との共同調査・研究

さいごに

図書館職員の専門性の土台の上に、新たに身につけるスキル
「変えるべきこと、継承していくこと」

大学図書館職員のあり方を考えるという大きな課題

人材委員会メンバー、研究者のみならず、会員館のご協力が必須